

憎しみの一瞬

パール

桐乃さち

人物

堀内一（32）（46）生物学者

深山泰司（56）猟友会会長

川上達樹（19）大学生

堀内愛菜（5）（19）堀内の娘

堀内美琴（30）堀内の妻

事務員

巡査

○病院 個室

堀内美琴（30）がベッドに寝ている。美琴、痩せて、毛糸の帽子をかぶっている。美琴、真珠が付いた指輪をしている。堀内愛菜（5）は美琴にくつついて遊んでいる。堀内一（32）が眉を顰めて新聞を読んでいる。新聞には「熊被害死傷者2名」と書かれている。

1

美琴「また、熊？」

堀内「ああ」

美琴「最近、増えてるわね」

堀内「温暖化の影響で、十分な食料を確保出来なくて人里に下りて来るんだ」

愛菜「熊―？」

堀内「それに、山を削られて冬眠する場所も少なくなってるしな」

愛菜「愛菜、熊、怖い！」

堀内「愛菜、熊は怖い動物じゃないんだよ。

本当なら、人間を襲ったりしないんだ」

愛菜、首をかしげる。

2

堀内「人間と同じように、熊も生きるのに必  
死なんだよ」

美琴「そんな難しいこと言われたって、分か  
らないわよねー？」

美琴と愛菜、笑い合う。堀内も笑う。

○山（夕）

人里離れた山。木々が色づいている。

タイトル「二年後」

○同 山小屋 居間（夕）

簡素な丸太小屋。堀内（46）、手で顔を  
覆って座っている。片腕に包帯を巻い  
た川上達樹（19）、うなだれて座ってい  
る。制服を着た巡査が立っている。堀  
内、腕時計を見て、ため息をつく。

堀内「捜索隊からは連絡ありませんか？」

巡査「ええ、まだ……」

川上、立ち上がって深くお辞儀をする。

川上「おじさん、ごめんなさい。俺が……」

堀内、拳をぎゅっと握る。

堀内「川上君は、傷は大丈夫か？親御さん、心配してるんじゃないか？」

川上、泣きそうな顔で頭を振る。堀内、立ち上がり、川上の肩に手を置く。

堀内「熊は普通、人間は食わない。急に人間に出くわして、驚いただけだろう。愛菜はきっと、大丈夫だ」

堀内、何度も頷く。

堀内「それより、熊に襲われた時の動画、もう一度見せてくれないか？」

川上「は、はい」

川上、スマホを堀内に渡す。

○同 個室（夕）

ベッドと机のある簡素な部屋。堀内、ベッドに座ってスマホを覗いている。

○（スマホの画面）森の中

うつそうと茂った森の中。揺れる画面。

後ろを気にしつつ、走っている堀内愛菜（19）の姿。

愛菜「早く！走って！」

川上の声「まじでさっきの、熊？」

カメラ、森にズームする。

愛菜「撮ってる場合じゃないって！」

木々がガサガサと動く。熊がすごい勢いで画面の方へ走って来る。空が映る。

川上の声「うわー！」

熊の荒い息遣い。熊のうなる声。「バシッ」と言う音。

熊の声「ぐお！」

血の付いた川上の手。愛菜が、木の棒を構えて、熊と対峙している。熊は、うめきながら地面に倒れている。

愛菜「川上君！助けを呼んで来て！」

川上「だ、だけど……」

愛菜「いいから、早く！」

後ずさりする画面。全速力で走っている川上の足。画面が暗くなる。

○元の山小屋 個室（夕）

堀内、頭をかきむしる。

堀内「愛菜……！」

ドアが開く音。人が入って来る足音。

堀内、慌てて立ち上がる。

○同 居間（夕）

深山泰司（56）が立っている。腕に「猟友会」と書かれた腕章を付けている。

巡査が心配そうに立っている。

巡査「お父様に確認していただきましようか」

深山、考え込むように腕組みをする。

堀内、入って来る。深山と巡査、一瞬

堀内を見るが、すぐ目を逸らす。

堀内「何か、あったんですか」

深山、眉を寄せる。堀内、唾を飲み込む。堀内、手が震え始める。

堀内「……見つけたんですか？」

深山「お父さん、愛菜さんの持ち物と思われる物が出てきました」

堀内「えっ」

深山「その近くに、熊がいる可能性があります。今獵友会のメンバーで捜索しています」

堀内「本当ですか！物って言うのは？」

巡査と深山、顔を曇らせる。

深山「指輪です。お心当たりありますでしょうか」

堀内「もしかして、真珠がついていますか？」

深山「ええ、そうです」

堀内「妻の肩身です。娘は、肌身離さず持ち歩いていたはずです！」

深山「ああ、そうですか……」

深山、沈痛な顔で俯く。

深山「獵友会の詰め所にあります。出来れば、お父様に確認していただきたいのですが」

堀内「ええ、もちろんです！」

○同 小屋の外（夕）

堀内、外に出る。川上、小屋の外にしゃがみ込み、顔を覆って泣いている。

堀内、驚いて目を見開く。堀内、川上に近づいて、肩に手を置く。

堀内「川上君、どうした」

川上、びくつと肩を強張らせる。

堀内「危ないじゃないか。中に入りなさい」

川上、後ずさり、地面に頭をこすりつける。川上、泣き崩れる。

川上「ごめんなさい、ごめんなさい！」

巡査が来て、川上を助け起こす。堀内、愕然とする。深山が後からやって来る。

深山「さあ、行きましようか」

深山が歩き始める。川上、怪訝な顔で深山の後について行く。

○山 猟友会 テント 前（夕）

「保善町 猟友会」と書かれた大きなテント。深山と堀内が歩いてやって来る。炊き出しをしている女性達、堀内から目を逸らす。堀内に向かって手を合わせて念仏を唱えている年配の女性

もいる。堀内、足が震え始める。

○同 テント 中（夕）

毛布や段ボールなどが積んである。数人の男性がお茶など飲んでいる。深山と堀内が入って行くと、蜘蛛の子を散らすように人がいなくなっていく。堀内、目を泳がせる。

深山「実は、これなんですけどね」

深山、小さなビニールを堀内に渡す。

透明のビニールに、真珠のついた指輪が入っている。堀内、何度も頷く。

堀内「間違いありません。娘のです」

深山「そうですか。普段は指につけていたんですか？」

堀内「確か、鎖をつけてネックレスにしていたはずです。どこにあったんですか？」

深山、気まずそうに俯く。

深山「実はですね、これが見つかりまして」

深山、布をどかす。泥のような黒い塊

が出て来る。堀内、目を見開く。

堀内「それは……」

深山「熊の糞です」

堀内、顔が強張る。

深山「今、警察に分析を依頼しているんですがね。どうも人間の皮膚の一部も一緒に入ってたようなんですわ」

堀内、わなわなと震えて、後ずさりをする。堀内。指輪を見つめる。指輪にも、黒い汚れがついている。

深山「もし、お嬢さんを襲った熊だとしたらですね……」

堀内、走って外に飛び出す。

○同 外 木の側（夕）

堀内、木の根元に向かって嘔吐している。堀内、泣きながら指輪を見つめる。風が吹き、雨が降り始める。堀内、木を殴りつけ始める。

堀内「うわあー！ー！ー！」

堀内の手が、血で染まっていく。堀内の血で染まった拳が、わなわなと震え始める。堀内、山を睨みつける。堀内、ふらふらと歩き始める。

テントの近くで、猟友会の男性達がタバコを吸って談笑している。堀内がやって来る。男性達、堀内の姿を見て真顔になる。堀内、男性達の方へ走って行く。堀内、男性の猟銃に手をかける。

男性「お、おい！何する！？」

堀内と男性、もみ合いになる。堀内、男性を背負い投げで投げ飛ばす。

男性「うわ！？」

男性が地面に叩きつけられると同時に、銃が暴発する。深山が出て来る。

深山「堀内さん！？」

堀内、猟銃を手取る。

深山「何してる、止める！止めるー！」

堀内、男性達の制止を振り切って、山の中へ入って行く。

